

同窓会だより

● 発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1

ホームページ <https://dousoukai.site/kenfuna/>

E-mail funaobog@gmail.com

● 印刷

(株)サラト

姫路市北条宮の町172番地

TEL079-284-1380

題字／小原天簫先生

母校は今

長寿命化工事がついに本館（写真）にも及び、保健室も昨年の暮れに仮校舎へ引越しました。保健室の窓から見えるのはすぐ隣の仮校舎の壁、といくぶん殺風景な景色ですが、新校舎の完成を心待ちにしながら勤務しています。

2020年度に養護教諭として着任し、今年度で6年目を迎えました。当初2年間は生徒たちの方が船高経験が長く、ましてや賢い子たちの集団。こちらも遠慮があつて当たり障りのない会話しかできない中で保健室を運営していました。幸い二人制の保健室のため、以前から勤務していた相手の先生に多くの学校



情報を教えていただいたおかげで、それほど時を経ず船高に馴染むことができました。自然体で生徒と接することができるようになった頃に見えてきたのは、学業や部活動に真摯に取り組み、仲間と刺激し合いながら、卒業後も自分の足で道を切り開く、頼もしい生徒たちの姿でした。あるとき、在学中のケガの保険手続きで訪れた卒業生の保護者が仰っていました。「娘は船高で素晴らしい仲間と出会い、大きく成長させてもらいました。船高の生徒たちは本当にすごいです」と。大いに共感したことを覚えています。

一方、そのような高校生活の中でつまずいてしまう生徒たちも少なくありません。学業に部活動に進路実現にと、忙しくも充実した生活がうまく回っているときはいいのですが、ひとたび歯車が狂うと調整し直すのは容易ではありません。きつと全力で走ってきたからこそ、つまずいたときは思い切り転んでしまい、大きな痛みを負ってしまうのでしょうか。そして、そんなときは立ち上がるだけでも大変です。全力で走る「エネルギー」などもう残っていないかもしれません。だからこそ、全力でなくていい、ほどよく力を抜く「いい加減」を身につけて自分のペースで人生を歩んでほしいと願っています。

少し自分の話をさせてください。私は船高OBではありますが、定時制の生徒でした。話が脱線しますが、ですからいわゆる「一般的な」高校生活は過ごしていません。同窓会だより『母校は今』が船高OB職員の執筆によるものというのとすら知らなかったので、原稿依頼が来たときは大いに戸惑いました。急いで過去の記事を見てみると、充実した船高生

時代を振り返りながら紹介しているものが多く、これはパスしかない、と即断。さつそく校内事務局に話しに行きました。「着任順、年齢順に執筆しています。特別な事情がなければ例外はありません」とのこと。そういった訳で、例年とは雰囲気異なる上に拙い文章ですが、ご容赦いただければ幸いです。言い訳が長くなりましたが、私が定時制に入学したのは中学時代に不登校を経験したからです。「いい加減」を身につけてほしいと生徒に伝える私自身、中学時代は生真面目そのものでした。だからこそ、つまずいている生徒をとて身近に感じます。つまずいて転んでしまつても大丈夫、苦しい今は次に歩み出すためのエネルギーを蓄える時期なんだよ、と心から思います。もちろん、順調そうに見える生徒たちも、多忙で多感な高校生です。しんどいときもあるはずです。そんなときは保健室で一息ついてほしい。船高保健室が、頑張る生徒も頑張らない生徒も、頑張れない生徒も安心して過ごせる場所でありたい。そして、そんな生徒たちを応援し続けていたい、そう強く思っています。

養護教諭

北澤智恵子（平成6年定時制卒）

同窓生 & 在校生

(令和7年10月1日現在)

同窓会員数	37,303人
名簿登録数	36,905人
うち全日制 (中学含む)	30,072人
定時制 (農業科含む)	5,528人
旧職員	1,305人
住所不明者	13,318人
在校生	1,246人
全日制 男 654人 女 418人	計 1,072人
定時制 男 93人 女 81人	計 174人
教職員	120人
全日制 84人 定時制 36人	(うち同窓生13人)

ご挨拶



同窓会会長

島崎 喜一

(昭和48年卒)

今年も同窓会だよりの季節を迎えました。経験したことがない長く暑い夏には辟易でしたが如何お過ごしでしょうか。幸いなことに母校では空調設備等の整備が着々と進んでおり、暑さに負けず頑張っている在校生の姿を見ることができました。一層の教育環境の充実を願います。

さて、今年も春の同窓会のご案内をさせていただきます。昭和五十六年卒の皆さんが幹事学年です。今回も多くの同期生が集まっていたと思います。この会では同じ学年でテーブルを囲めるよう工夫しておりますが、学年を超えた邂逅も楽しみの一つです。百五年の歴史の中で、それぞれの時代を写したそれぞれの「高校時代」は千差万別です。戦後の新制高校創成期、学生運動に揺れた時代、学区制、高度経済成長期、バブル経済と崩壊後、戦後だけでなく世相は枚挙に暇がありません。恐らく思い出も経験も異なります。しかし、母校で過ごし培ってきた共通の「船高気質」を受け継いでいるのですから、多様な船高生であつても、一堂に会した仲間であり、世代を超えた出会いは貴重なものです。会場には船高という共通項で括られた仲間しかいないので気軽に参加していただき、是非違う学年の先輩後輩と話す機会を持っていたきたいと思ひます。

末筆となりましたが、今年の春の同窓会から間もなく金子安夫元会長が急逝されました。先輩は創立九〇周年の実行委員会委員長を担われるなど同窓会への多大な貢献は枚挙に暇がありません。特に大きな声で

母校へエールを送る姿は忘れたいものです。紙面をお借りし改めて多年に亙る同窓会へのご尽力に感謝し、重ねてご冥福をお祈り申し上げます。

千葉県立船橋高等学校
校長 武富 恒徳

同窓会員の皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。私は、本年、四月に、新たに着任いたしました校長の武富恒徳と申します。

さて、同窓会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に對しまして、物心両面にわたり多大なる御支援をいただいております。皆様の温かい御支援は、生徒にとりまして、先輩である皆様方が、母校の後輩を見守り、励ましてくださっていることに、大いに勇気づけられ、未来への希望を膨らませる契機になっておりますとともに、そのおかげで生徒たちは目標に向かって努力を続け、力を発揮することができております。この場をお借りし、改めて心より感謝申し上げます。

創立百年(百六年度)を超え、次の第二世紀のステージへと歩んでいる本校が、今年も充実した伝統を未来に繋ぎ、本校の生徒が、先輩方に続き、本校での学びを糧に、国内外で活躍できるリーダーとなつて社会に貢献するとともに、自他敬愛の精神に立つて、逞しい人間力と国際感覚を磨き、ふるさとの文化を守り育てることのできる人材となるよう、多くの生徒たちが勉学・部活動・学校行事に意欲的に取り組み、それぞれの目標に向かって努力を重ねております。教職員一同、校訓「専心研学」のもと、生徒一人ひとりの成長を支えながら「人間力」の育成に努めております。

また、令和七年八月三日に開催されました

令和七年度の同窓会総会では、多くの同窓生の皆様方の御出席を得て、世代を超えた絆がこうして受け継がれていることに、改めて本校の歴史と伝統の重みと意義深さに感じ入つたと存じます。今後も、同窓会の皆様との連携を大切にしながら、地域に愛され、時代に求められる学校づくりを進めてまいります。引き続き、母校への温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の御健康と御活躍を心よりお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

千葉県立船橋高等学校
副校長 西川 徳郎

本年度、「ケンフナ」定時制の副校長として着任しました西川と申します。前任校が「イチフナ」でしたので、定期券に変更ないままに、四月からは昼真つただ中に通勤し、夜遅くに退勤する日々を送っております。どうぞよろしくお願いいたします。

同窓生の皆様におかれましては、平素から全定隔でなく本校の教育活動に様々な側面から御支援を賜り、心から感謝申し上げます。また、去る八月三日(日)には、総会に参加させていただきました。誠にありがとうございます。酷暑にもかかわらず、老若男女、多数の同窓生の方々が出席なされている光景に感激いたしました。これまでの勤務校にはなかったものであり、参加者の方々の母校愛が伝わってきました。来年の二月には「春の同窓会」も予定されているとのこと。今から楽しみにしております。

さて、本校定時制の課程ですが、県内唯一の定時制総合学科であり、多様な生徒の学び場としての役割を果たしています。「微笑と共感のまなざし」が自分の身にかけることを求めて学校に足を運ぶ生徒たち

のために、学校として何ができるのかを自問自答しながら、職員一同、日々の業務に取り組んでいく所存ですので、引き続きの御支援をお願いいたします。

千葉県立船橋高等学校
事務長 山崎 百合子

日頃より本校の教育活動に多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。

今年度、事務長として着任しました山崎と申します。どうぞよろしく願ひいたします。同窓会からは毎年、全日制及び定時制のPTAに補助をしていただきありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

事務長としては一年目ですが、船橋高校には平成二十二年度から二十五年度までと平成三十一年度から今年度まで勤務しております。

この間、大きな災害を経験しました。一つ目は東日本大震災で、二つ目は新型コロナウイルス感染症拡大です。東日本大震災により生徒職員の備蓄品を常備することになりました。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延により在宅勤務を取り入れるなど働き方が大きく変わる契機となりました。

その他にも、長寿命化対策工事も第一期として工事を行っており、すでに工事を終えた南館及び新館はリニューアルしました。工事後はエレベーターが増設され、ないのが当たり前、あるのが当たり前と少しずつ変化しているのを感じます。

時代の流れが大きく変わっていく中で、船橋高校で経験させていただいたことを活かして生徒のより良い環境づくりのために役立てたいと思ひます。

県立船橋高等学校同窓会の益々のご発展を祈念申し上げます。

令和七年度
総会報告

本年度の総会は例年通り学校で開催する事が出来まし

た

八月三日(日)に母校で開催された総会(写真)では、令和六年度事業・決算の報告、令和七年度の事業計画・予算、千葉県立船橋高等学校同窓会補助金等の交付に関する規則が承認されました。

同窓会会計報告

同窓会の決算と予算については右下の表をご覧ください。収入の部は前年の繰越金を除くと主なものは入会金と同窓会運営費、春の同窓会会費となります。

令和六年度の決算では、令和七年三月に卒業された新会員四百二名分の入会金、「春の同窓会」の会費収入、「同窓会運営費」が主な収入でした。中でも同窓会運営費は千三百四十人を超える多くの会員の皆様と昭和三十六年卒同期会からの寄付金により、過去最高額となる約四百二十万円(三月末日)が集まりました。なお六・七ページにある「運営費納入者芳名録は、同窓会だよりが届く十二月から翌年九月までの振込みを集計して作成しています。」



令和六年度総会の模様

支出の部の明細は、広報費として同窓会だより第三十七号の製作と七千四百九十二名の会員への発送、「春の同窓会」の開催費用、在校生への後援費が主なものです。

なお同窓会

は、令和六年度から新ルールにのっとり発送先を選別しています。ルールについては七ページをご覧ください。

コロナ禍後二回目の開催となった「春の同窓会」は三百二十名を超える会員が全国から集まりました。会費は従来通り一万円に据え置きましたが、今後は物価高の影響が心配されます。

同窓会学年理事名簿

令和7年4月1日現在

昭和28年	林 昇志*	昭和55年	坂間 明彦*
昭和31年	鮎川 昌澄	昭和55年	田中 宏道
昭和31年	塩田 俊一	昭和55年	酒匂 一揮
昭和33年	小石 裕久	昭和56年	末永 吉織
昭和33年	岩谷 達夫	昭和56年	吉藤 茂
昭和34年	小石 洋	これ以降の学年は今後順次「春の同窓会」の幹事学年となります	
昭和34年	興松 勲		
昭和35年	鳥光 隆	昭和57年	荒井 隆
昭和35年	上原 幸子	昭和58年	田所真紀子
昭和35年	福島真知世	昭和59年	古澤 一郎
昭和36年	相澤 友夫	昭和60年	小沢 庸子
昭和36年	及川昭三郎	昭和61年	青山ひとみ
昭和38年	並木日呂忠	昭和62年	照屋 壮仁
昭和39年定	立石 光夫	昭和63年	
昭和39年定	小池 貞雄	平成元年	渡邊 洋
昭和40年	鶴岡 義明*	平成2年	清田 篤
昭和40年	藤白 賢史	平成2年	荒川 秀一
昭和41年定	田辺 幸一*	平成3年	
昭和41年	満留 修二	平成4年	
昭和41年	手塚 隆臣	平成5年	吉田有希子
昭和42年	矢野 光正	平成6年	
昭和42年	生駒 恵子	平成7年	
昭和43年	子安 啓司*	平成8年	
昭和44年	小川 隆啓	平成9年	
昭和44年	向井 廣志	平成10年	
昭和44年	小川 佳延	平成11年	
昭和45年	三村 達	平成12年	
昭和45年	松野 修一	平成13年	
昭和46年	今村 麻美*	平成14年	
昭和46年	萩原 成典	平成15年	岡 直樹
昭和47年	武井 正	平成16年	
昭和47年	正木 昌治	平成17年	
昭和47年	古川 均	平成18年	
昭和48年	島崎 喜一*	平成19年	増井 由香
昭和48年	田中 幸栄	平成20年	
昭和48年	柴田 昭一*	平成21年	
昭和49年	大浦 成子*	平成22年	
昭和49年	植村 八潮	平成23年	
昭和49年	金子 孝*	平成24年	増岡 秀行
昭和50年	森 和俊*	平成25年	
昭和50年	田邊 裕雄	平成26年	
昭和51年	野田 佳彦	平成27年	千葉のどか
昭和51年	寒竹 郁夫	平成28年	
昭和51年	服部 友則	平成29年	
昭和52年	吉野 深雪*	平成30年	日暮 翼
昭和52年	森島 康長	平成31年	
昭和52年	谷口 亨	令和2年	金子 和樹
昭和52年	山田 聡	令和3年	
昭和53年	長谷川 大	令和4年	
昭和53年	横田 隆之	令和5年	
昭和53年	向笠 真司	令和6年	
昭和54年	大久保 順	令和7年	
昭和54年	森 弘之		
昭和54年	高瀬 賢治		

氏名の末尾に*付きは役員

校長及び校内理事は記載していません

理事未選出学年

卒年(3月)別の学年理事の一覧となりますが理事が選出されていない学年があります。該当する学年は、卒業時に選出された学年幹事または同期同窓会を開催した時の代表幹事などを基に学年理事を推薦してください。決定しましたら同窓会事務局までご一報ください。またご質問等がありましたら同様に願います。

令和6年度決算及び令和7年度予算

1. 収入の部

科 目	7年度予算	6年度予算	6年度決算
繰越金	18,117,797	16,365,446	16,365,446
一般会計	18,117,797	16,365,446	16,365,446
会 費	7,975,000	7,700,000	8,680,304
入会金	1,200,000	1,200,000	1,206,000
春の同窓会	3,275,000	3,500,000	3,265,000
同窓会運営費	3,500,000	3,000,000	4,209,304
雑収入	7,000	100	39,352
雑収入	0	0	31,700
利息	7,000	100	7,652
合 計	26,099,797	24,065,546	25,085,102

2. 支出の部

科 目	7年度予算	6年度予算	6年度決算
会議費	100,000	100,000	44,402
総会	50,000	50,000	4,652
理事会	50,000	50,000	39,750
需用費	140,000	140,000	113,289
通信手数料	100,000	100,000	88,690
印刷費	10,000	10,000	10,000
消耗品費	20,000	20,000	10,320
謝金等諸費	0	0	0
運営雑費	10,000	10,000	4,279
後援費	1,340,000	1,110,000	915,113
在校生補助	900,000	800,000	650,000
特別奨励金	100,000	100,000	80,000
卒業記念品	140,000	140,000	140,800
会員補助	200,000	70,000	44,313
餞別及び慶弔費	70,000	70,000	60,000
餞別金等	50,000	50,000	30,000
慶弔費	20,000	20,000	30,000
春の同窓会費	3,100,000	2,960,000	2,924,350
会場費	2,850,000	2,700,000	2,688,500
幹事学年諸費	200,000	200,000	200,000
運営雑費	50,000	60,000	35,850
会報及び広報費	3,000,000	3,000,000	2,910,151
会報発行費	2,950,000	2,950,000	2,862,851
H P 運営費	50,000	50,000	47,300
雑費	0	0	0
入会金返戻	0	0	0
予備費	18,349,797	16,685,546	0
繰越額			18,117,797
合 計	26,099,797	24,065,546	25,085,102

以上から決算としては三年連続で単年度収支の黒字化が図れ繰越金が増えました。春の同窓会について

適用します。規則にある交付金の利用方法については四ページをご覧ください。また規則については同窓会ホームページにてご確認ください。

この規則は同期会の開催補助と支部等の活動を補助する事が主目的で、昨年度の総会で承認された「同窓会の永続的な発展を目指した方針」に基づいて制定されました。本規則の交付日は令和七年八月三日ですが令和七年度初頭から

学年理事未選出学年への対応船高同窓会と同期会のパイプ役として学年理事の存在は必要不可欠です。未選出の学年に対しては卒業時の学年幹事を中心に理事の選出を働きかけていきます。

同窓会の補助事業が決定

補助金等の交付に関する規則を制定

同窓会副会長・事務局長 森 和俊 (昭和五十年卒)

目指す方向◆会員の交流促進と母校愛の醸成

これまで同窓会が行ってきた後援事業は、在校生の部活動の実績に応じた補助金の交付が主なものでした。一方で卒業生である会員に対しては毎年2月11日に春の同窓会を開催し、幹事学年を中心に会員の交流の場を提供してきました。

さて世の中を見渡せば、ITの発達により手軽に友人とつながる手段は増えました。しかし私たちはコロナ禍を経て「仲間と直接会って話をする」といかに大事か改めて気づかされたと言えます。そしてこういうリアルな出会いの場づくりが求められており、その例として同窓生が集まって昔話で盛り上がる事ができる同窓会あるいは同期会がある、と言えなくはないでしょうか。

幸い私たちの母校船高は、100年を超える歴史と3万人の卒業生を輩出しており会員は社会の多方面で活躍しています。私たち船高同窓会は会員同志の交流の場づくりをお手伝いし、会員の皆さんに母校への思いを熱く語っていただきたい、と考えています。

新事業の開始◆補助金等の交付に関する規則の制定

今回千葉県立船橋高等学校同窓会(以下船高)補助金等の交付に関する規則(以下規則)を制定しまし

た。そのうち会員向けの補助事業は下の表の通りです。なお規則は同窓会HPでご確認ください。

補助金交付①同期会

同窓会組織の要は言うまでもなく卒業生である会員ですが、団体としては同じ年に卒業したクラス・学年の集まりが基本です。そして

各学年から選出された学年理事を中心に船高同窓会の活動は進められています。現在、学年理事は昭和62年卒までの学年からは選出されていますが以降の学年では抜けて見受けられます。(3ページの学年理事名簿を参照)今回制定された規則の一つである「同期会(同学年の集まり)」を開催するための補助金交付ですが、補助金の申請は学年理事が行うこととなります。ですから理事が選出されていない学年の皆さんは、卒業時の学年幹事を中心に早めに学年理事を選出し同窓会事務局へご連絡ください。

補助金交付②支部組織

船高同窓会の会則第17条における支部組織にはどういふものがあるか以下に説明します。それによると「支部は原則として、市町村ごとに在住所の会員で組織するもの」としていますが、今回の規則では、部活動のOB・OG会も支部組織として想定します。この場合同じ部活動でも年代別に複数の団体が存在することも考えられますが、補助金の交付は同一部活動では全学年を構成員とした一つの団体を対象とします。なおこれ以外のケース(廃部の部活動など)については事務局と相談してください。

補助金交付③在校生

今回の規則では、従来から行ってきた在校生向けの後援活動は継続していきます。ただ今までは、部活動において全国大会、地方大会への参加に対して補助金を交付することがメインでした。ですから支援の対象が限定されていた、と捉えられるかもしれません。そこで今回の規則では部活動に限らず在校生が支援を必要とする場面があれば柔軟な補助金の交付を可能としました。ただしこれについては学校長と同窓会長が協議の上支援事業を選定していくこととします。

船高同窓会補助事業

事業名	補助内容と条件など								
会員補助事業	「千葉県立船橋高等学校同窓会補助金等の交付に関する規則(令和7年4月1日施行)」に基づく								
(1) 同期会等事業(同期会開催補助)	<table><tr><td>補助内容</td><td>◆同期会(卒業年を一にする全日制または定時制の会員が開催する親睦会等、クラス会は除く)の開催に対して1万円の補助金を支給する ◆卒業後5年以内の新会員による第1回同期会(クラス会は除く)には5万円の補助金を支給する</td></tr><tr><td>条件等</td><td>①補助金の支給は同窓会の会計年度ごとに一回までとする ②上記補助の申請・補助金の支給は全て当該卒業年度の学年理事を通じて行うものとする ただし新会員の第1回同期会については学年理事の選出が完了していない場合は代理として学年幹事が補助金の申請を行うものとする ③学年理事が不在の場合は理事を選出し同窓会に届け出ることとする ④開催案内を目的とした同期生の会員情報は、同窓会事務局を通じて名簿管理委託業者(樹サト)から非公開者を除く会員の氏名・住所・電話番号のみを提供する なお会員情報の提供は5年を経過しなければ新たに申し出ることはできない</td></tr><tr><td>申請方法</td><td>【申請時期】 同期会開催後すみやかに申請する 【申請内容】 以下の項目を同窓会事務局(funaobog@gmail.com)へメールで申請 申請の宛先は「千葉県立船橋高等学校同窓会長」①申請学年(3月卒業年) ②申請者(学年理事氏名) ③同期会開催年月日 ④同開催場所(会場名) ⑤所在把握済の同期生数 ⑥当日参加者数 ⑦宴会費の領収書(写しをデータ添付) 【補助金交付】 申請内容を審査し会長の承認後、理事の指定銀行口座に振り込む</td></tr></table>	補助内容	◆同期会(卒業年を一にする全日制または定時制の会員が開催する親睦会等、クラス会は除く)の開催に対して1万円の補助金を支給する ◆卒業後5年以内の新会員による第1回同期会(クラス会は除く)には5万円の補助金を支給する	条件等	①補助金の支給は同窓会の会計年度ごとに一回までとする ②上記補助の申請・補助金の支給は全て当該卒業年度の学年理事を通じて行うものとする ただし新会員の第1回同期会については学年理事の選出が完了していない場合は代理として学年幹事が補助金の申請を行うものとする ③学年理事が不在の場合は理事を選出し同窓会に届け出ることとする ④開催案内を目的とした同期生の会員情報は、同窓会事務局を通じて名簿管理委託業者(樹サト)から非公開者を除く会員の氏名・住所・電話番号のみを提供する なお会員情報の提供は5年を経過しなければ新たに申し出ることはできない	申請方法	【申請時期】 同期会開催後すみやかに申請する 【申請内容】 以下の項目を同窓会事務局(funaobog@gmail.com)へメールで申請 申請の宛先は「千葉県立船橋高等学校同窓会長」①申請学年(3月卒業年) ②申請者(学年理事氏名) ③同期会開催年月日 ④同開催場所(会場名) ⑤所在把握済の同期生数 ⑥当日参加者数 ⑦宴会費の領収書(写しをデータ添付) 【補助金交付】 申請内容を審査し会長の承認後、理事の指定銀行口座に振り込む		
補助内容	◆同期会(卒業年を一にする全日制または定時制の会員が開催する親睦会等、クラス会は除く)の開催に対して1万円の補助金を支給する ◆卒業後5年以内の新会員による第1回同期会(クラス会は除く)には5万円の補助金を支給する								
条件等	①補助金の支給は同窓会の会計年度ごとに一回までとする ②上記補助の申請・補助金の支給は全て当該卒業年度の学年理事を通じて行うものとする ただし新会員の第1回同期会については学年理事の選出が完了していない場合は代理として学年幹事が補助金の申請を行うものとする ③学年理事が不在の場合は理事を選出し同窓会に届け出ることとする ④開催案内を目的とした同期生の会員情報は、同窓会事務局を通じて名簿管理委託業者(樹サト)から非公開者を除く会員の氏名・住所・電話番号のみを提供する なお会員情報の提供は5年を経過しなければ新たに申し出ることはできない								
申請方法	【申請時期】 同期会開催後すみやかに申請する 【申請内容】 以下の項目を同窓会事務局(funaobog@gmail.com)へメールで申請 申請の宛先は「千葉県立船橋高等学校同窓会長」①申請学年(3月卒業年) ②申請者(学年理事氏名) ③同期会開催年月日 ④同開催場所(会場名) ⑤所在把握済の同期生数 ⑥当日参加者数 ⑦宴会費の領収書(写しをデータ添付) 【補助金交付】 申請内容を審査し会長の承認後、理事の指定銀行口座に振り込む								
(2) 支部組織等事業(活動補助)	<table><tr><td>補助内容</td><td>◆支部組織(会則第17条に定める支部組織の他、別に定める細則に基づき会則第11条に規定する支部組織として認められた会員が組織する部活動OB・OG会等の団体)の活動に対して年間1万円の補助金を支給する</td></tr><tr><td>支部組織等の設立要件</td><td>当補助を受けるためには以下の支部等設立要件を満たしたうえで同窓会の公認団体とならなければならない ①会員名簿の作成管理および代表者と役員の選出 ②年1回の総会開催と年間の活動結果と次年度の活動計画の報告</td></tr><tr><td>申請方法</td><td>【申請時期】 支部組織等の申請を同窓会総会開催前までに済ませる 【申請内容】 以下の項目を同窓会事務局(funaobog@gmail.com)へメールで申請 申請の宛先は「千葉県立船橋高等学校同窓会長」①支部組織等名称 ②申請者(代表者氏名)、事務連絡等担当者がある場合は担当者氏名と連絡先 ③総会開催年月日 ④総会への出席予定者の氏名 ⑤支部組織の構成員の範囲(記載例:○○部のOB・OG会等) ⑥活動の目的(記載例:OB・OGの親睦、母校○○部への支援等) ⑦活動の概要(記載例:総会、懇親会等具体的な活動内容) ⑧支部組織の構成員の名簿(氏名・卒業年をデータ添付) 【補助金交付】 申請内容を審査し会長の承認後、年1回(同窓会の総会開催日10日以内)代表者の指定銀行口座へ前年度の活動分を振り込む</td></tr><tr><td>その他</td><td>①支部組織等は会則第17条で市町村ごとのものを定義しているが、当規則では部活動OB・OG会を含めている。支部組織としてはこのほかに職域等が考えられるが補助対象とすることについては今後の検討事項とする。 ②同一部活動において複数のOB・OG会が存在する場合はその活動内容を審査した上で承認の可否を決定する。 ③部活動OB・OG会については廃部となった組織も含めてその構成員の学年が概ね10年以上にわたるものを対象とし、その活動内容を審査した上で承認の可否を決定する。 ④「部活動OB・OG会」は会員同士の親睦を深める他に在校生の部活動を補助できるものとするが、在校生との交流は同窓会事務局へその旨を申請し学校長の許可を得る。</td></tr></table>	補助内容	◆支部組織(会則第17条に定める支部組織の他、別に定める細則に基づき会則第11条に規定する支部組織として認められた会員が組織する部活動OB・OG会等の団体)の活動に対して年間1万円の補助金を支給する	支部組織等の設立要件	当補助を受けるためには以下の支部等設立要件を満たしたうえで同窓会の公認団体とならなければならない ①会員名簿の作成管理および代表者と役員の選出 ②年1回の総会開催と年間の活動結果と次年度の活動計画の報告	申請方法	【申請時期】 支部組織等の申請を同窓会総会開催前までに済ませる 【申請内容】 以下の項目を同窓会事務局(funaobog@gmail.com)へメールで申請 申請の宛先は「千葉県立船橋高等学校同窓会長」①支部組織等名称 ②申請者(代表者氏名)、事務連絡等担当者がある場合は担当者氏名と連絡先 ③総会開催年月日 ④総会への出席予定者の氏名 ⑤支部組織の構成員の範囲(記載例:○○部のOB・OG会等) ⑥活動の目的(記載例:OB・OGの親睦、母校○○部への支援等) ⑦活動の概要(記載例:総会、懇親会等具体的な活動内容) ⑧支部組織の構成員の名簿(氏名・卒業年をデータ添付) 【補助金交付】 申請内容を審査し会長の承認後、年1回(同窓会の総会開催日10日以内)代表者の指定銀行口座へ前年度の活動分を振り込む	その他	①支部組織等は会則第17条で市町村ごとのものを定義しているが、当規則では部活動OB・OG会を含めている。支部組織としてはこのほかに職域等が考えられるが補助対象とすることについては今後の検討事項とする。 ②同一部活動において複数のOB・OG会が存在する場合はその活動内容を審査した上で承認の可否を決定する。 ③部活動OB・OG会については廃部となった組織も含めてその構成員の学年が概ね10年以上にわたるものを対象とし、その活動内容を審査した上で承認の可否を決定する。 ④「部活動OB・OG会」は会員同士の親睦を深める他に在校生の部活動を補助できるものとするが、在校生との交流は同窓会事務局へその旨を申請し学校長の許可を得る。
補助内容	◆支部組織(会則第17条に定める支部組織の他、別に定める細則に基づき会則第11条に規定する支部組織として認められた会員が組織する部活動OB・OG会等の団体)の活動に対して年間1万円の補助金を支給する								
支部組織等の設立要件	当補助を受けるためには以下の支部等設立要件を満たしたうえで同窓会の公認団体とならなければならない ①会員名簿の作成管理および代表者と役員の選出 ②年1回の総会開催と年間の活動結果と次年度の活動計画の報告								
申請方法	【申請時期】 支部組織等の申請を同窓会総会開催前までに済ませる 【申請内容】 以下の項目を同窓会事務局(funaobog@gmail.com)へメールで申請 申請の宛先は「千葉県立船橋高等学校同窓会長」①支部組織等名称 ②申請者(代表者氏名)、事務連絡等担当者がある場合は担当者氏名と連絡先 ③総会開催年月日 ④総会への出席予定者の氏名 ⑤支部組織の構成員の範囲(記載例:○○部のOB・OG会等) ⑥活動の目的(記載例:OB・OGの親睦、母校○○部への支援等) ⑦活動の概要(記載例:総会、懇親会等具体的な活動内容) ⑧支部組織の構成員の名簿(氏名・卒業年をデータ添付) 【補助金交付】 申請内容を審査し会長の承認後、年1回(同窓会の総会開催日10日以内)代表者の指定銀行口座へ前年度の活動分を振り込む								
その他	①支部組織等は会則第17条で市町村ごとのものを定義しているが、当規則では部活動OB・OG会を含めている。支部組織としてはこのほかに職域等が考えられるが補助対象とすることについては今後の検討事項とする。 ②同一部活動において複数のOB・OG会が存在する場合はその活動内容を審査した上で承認の可否を決定する。 ③部活動OB・OG会については廃部となった組織も含めてその構成員の学年が概ね10年以上にわたるものを対象とし、その活動内容を審査した上で承認の可否を決定する。 ④「部活動OB・OG会」は会員同士の親睦を深める他に在校生の部活動を補助できるものとするが、在校生との交流は同窓会事務局へその旨を申請し学校長の許可を得る。								

◆ 恩師探訪 ◆

学びの日々

大串 清



【船高国語科】

一度目の県船勤務は昭和五十三年からである。初任の県中央部の商業高校に二年勤務し、都市部の新設校に異動した四年後の事だった。それまでは、授業の下調べなどは関心が薄く、専ら部活動や、クラス運営などが職務の中心課題だった。放課後は部活動の指導や、家庭訪問に明け暮れていた。

当時、県船の国語科は、敷居の高い所だった。異動の為に、国語科主任による面接があると知らされた。昭和三十八年文部省の指定を受け、ほぼ二年間の調査研究を経て昭和四十一年にまとめられ、発行された大冊の「教材と指導法」に関する調査研究書を県船の国語科は発刊しており、その研究を推進した先

生方もまだ数名在職しておられたのである。

また研究室には大学の図書館で見えるような、『群書類従』、『尊卑文脈』、『古事類苑』、『日本歌学大系』等々、アカデミックな書籍が、研究室のドアをあけると、汗牛充棟といった趣で並べられていたのが記憶に残る。

【文庫本の誤植】

ある時、女子生徒が『舞姫』の文庫本をもって質問にきた。使用の教科書には確かに『舞姫』が採られており、次学期はその教材に取り組み予定であった。しかし教科書の『舞姫』本文は限られており、他の部分は簡単な要約が載せられているばかりであった。その女子生徒は、文庫本の、あるページの句点の前後を指さして、「先生これはおかしくありませんか？本来連体形で終わるはずが、終止形で終わっていますよね。」と言うのである。

もちろん教科書に採られた以外の部分である。恥ずかしながら、私はその理由をその場で説明できずに、「戸惑ってしまった。調べてみることを約束し、あわてて他社の発行本何冊かに当たってみた。結局この文庫本の

誤植である事が判明した。予め教材の本文全編を予習したり、文末の一字が誤植されていることを鋭く見抜く生徒がいることは初めての体験であった。

【西域研修】

昭和五十九年夏季休暇中には、県船国語科の大先輩K先生と、県国語部会後援の中国西域研修に出掛けた。当時の中国国内は、まだ改革开放直後で政治的に不安定であったこともあり、我々は「観光客」ではなく「招待者」ということで様々な体験ができた。

高昌古城跡や石窟、

摩崖仏。滔々と流れる大河。気温五十度にもなる砂漠。ウルムチのハミ瓜。トルファンでの巨大で真っ赤な夕日。葡萄棚の下での舞踊。漢民族とは明らかに体形も言語も違うが、コミュニケーションは可能だ。以後漢詩の読み方が変わってきた。

【相談活動】

昭和五十年代に学校現場が荒れて、米国から入ってきたカウンセリング理論に陽が当たった。私も担任であった為、それまでの一斉授業やいわゆる「生活指導」に疑問を感じ続けていた時期だった。更に県船でも不幸なこ

とに自死が起こった。生徒指導会議の度に、生徒への対処法を検討する事が行なわれた。そんな折、当時の校長から相談の担当を指名され、夏季休暇中に筑波大学に研修に行き、教育相談の基礎や、手紙相談の手法などを学んで実践してみたり、また校長の許しを得て放課後に上智大学の「カウンセリング研究所」でカウンセリングの手法を学んだ。その際には生徒の数人に実践的に対応してもらい、大いに助けられた。

教頭としての三年間を加える



と、県船での日々は十七年の長きになるが、今思えばその間は学び続けた時であり、教師冥利に尽きる日々であった。

【現在の楽しみ】

○週三のジム通い。身体維持管理は大切。体調を自覚できる。
○週二の畑仕事。田舎の家と土地を引継いだ。土日にはその住民となり、共同作業や草刈り、家庭菜園を行なう。今年はトマトや胡瓜が全くの不作。でも南瓜やトウモロコシ、オクラや薩摩芋は良く採れた。

○月一の源氏物語とゴルフ。公民館で、ほぼ同年配の方々と相手に、源氏物語の講読会を楽しんでいる。最近「光る君へ」のお陰で、平易な参考資料も多く出版され、平安時代が近くなった。また、田舎がゴルフ銀座の真ん中なので、軽トラにバッグを積み、気の置けない仲間と気軽に楽しんでいる。打数の多いほうが優位のルールだ。

○年数回の大道芸。『蝦蟇の油』は、ライフワークだ(写真)。目の前の観客にいかにも楽しんでもらうか。観察力を駆使しつつ、音声や動作によるコミュニケーション力の錬成。表現行動とは何かを、実践的に考え続けている。

同窓会運営費納入者御芳名(敬称略)

卒業年は年度ではなく3月時のものです。

卒業年別
運営費納入者数・合計金額
集計期間
2024/10/24～2025/9/20

卒業年	人数	合計金額
昭和21年	1	2,000
昭和22年	1	1,000
昭和23年	1	1,380
昭和24年	0	
昭和25年	3	6,000
昭和26年	3	5,000
昭和27年	7	10,000
昭和28年	7	130,000
昭和29年	10	35,000
昭和30年	12	52,000
昭和31年	20	48,000
昭和32年	10	29,380
昭和33年	17	43,000
昭和34年	36	128,000
昭和35年	26	54,000
昭和36年	29	353,989
昭和37年	28	83,000
昭和38年	21	59,000
昭和39年	33	84,000
昭和40年	28	66,000
昭和41年	29	85,000
昭和42年	31	81,000
昭和43年	40	120,000
昭和44年	33	80,000
昭和45年	34	107,600
昭和46年	66	187,000
昭和47年	30	53,000
昭和48年	54	146,000
昭和49年	49	144,000
昭和50年	76	211,000
昭和51年	21	53,000
昭和52年	39	86,000
昭和53年	34	114,000
昭和54年	51	113,000
昭和55年	51	167,000
昭和56年	45	192,000
昭和57年	31	136,000
昭和58年	40	148,000
昭和59年	22	43,000
昭和60年	29	83,000
昭和61年	28	98,000
昭和62年	21	39,000
昭和63年	14	85,000
平成元年	12	34,000
平成02年	16	36,000
平成03年	14	39,000
平成04年	14	42,000
平成05年	2	2,000
平成06年	8	15,000
平成07年	4	14,000
平成08年	7	13,000
平成09年	7	22,000
平成10年	6	11,000
平成11年	8	18,000
平成12年	7	13,000
平成13年	6	17,000
平成14年	3	26,000
平成15年	3	3,000
平成16年	1	1,000
平成17年	1	1,000
平成18年	7	20,000
平成19年	4	12,000
平成20年	4	8,000
平成21年	1	1,000
平成22年	3	10,000
平成23年	1	1,000
平成24年	1	3,000
平成25年	5	5,000
平成26年	5	32,000
平成27年	3	9,000
平成28年	1	1,000
平成29年	3	3,000
平成30年	4	4,000
平成31年	6	13,000
令和02年	6	18,000
令和03年	13	15,000
令和04年	3	7,000
令和05年	7	9,380
令和06年	4	5,000
旧職員	21	65,000
その他	1	5,000

金額総合計※

¥4,315,729

※加入者負担通常払込料含む

人数総合計

1,393名

過去10年間に1回以上
運営費に協力いただいた方

3,504名

昭和21/1946年卒業

昭和22/1947年卒業

昭和23/1948年卒業

昭和25/1950年卒業

昭和26/1951年卒業

昭和27/1952年卒業

昭和28/1953年卒業

昭和29/1954年卒業

昭和30/1955年卒業

昭和31/1956年卒業

昭和32/1957年卒業

昭和33/1958年卒業

昭和34/1959年卒業

昭和35/1960年卒業

昭和36/1961年卒業

昭和37/1962年卒業

昭和38/1963年卒業

昭和39/1964年卒業

昭和40/1965年卒業

昭和41/1966年卒業

昭和42/1967年卒業

昭和43/1968年卒業

昭和44/1969年卒業

昭和45/1970年卒業

昭和46/1971年卒業

昭和47/1972年卒業

昭和48/1973年卒業

昭和49/1974年卒業

昭和50/1975年卒業

昭和51/1976年卒業

昭和52/1977年卒業

昭和53/1978年卒業

昭和54/1979年卒業

昭和55/1980年卒業

昭和56/1981年卒業

昭和57/1982年卒業

昭和58/1983年卒業

昭和59/1984年卒業

昭和60/1985年卒業

昭和61/1986年卒業

昭和62/1987年卒業

昭和63/1988年卒業

昭和64/1989年卒業

昭和65/1990年卒業

昭和66/1991年卒業

昭和67/1992年卒業

昭和68/1993年卒業

昭和69/1994年卒業

昭和70/1995年卒業

昭和71/1996年卒業

昭和72/1997年卒業

昭和73/1998年卒業

昭和74/1999年卒業

昭和75/2000年卒業

昭和76/2001年卒業

昭和77/2002年卒業

昭和78/2003年卒業

昭和79/2004年卒業

昭和80/2005年卒業

昭和81/2006年卒業

昭和82/2007年卒業

昭和83/2008年卒業

昭和84/2009年卒業

昭和85/2010年卒業

昭和86/2011年卒業

昭和87/2012年卒業

昭和88/2013年卒業

昭和89/2014年卒業

昭和90/2015年卒業

昭和91/2016年卒業

昭和92/2017年卒業

昭和93/2018年卒業

昭和94/2019年卒業

昭和95/2020年卒業

昭和96/2021年卒業

昭和97/2022年卒業

昭和98/2023年卒業

昭和99/2024年卒業

令和00/2025年卒業

昭和21/1946年卒業

昭和22/1947年卒業

昭和23/1948年卒業

昭和25/1950年卒業

昭和26/1951年卒業

昭和27/1952年卒業

昭和28/1953年卒業

昭和29/1954年卒業

昭和30/1955年卒業

昭和31/1956年卒業

昭和32/1957年卒業

昭和33/1958年卒業

昭和34/1959年卒業

昭和35/1960年卒業

昭和36/1961年卒業

昭和37/1962年卒業

昭和38/1963年卒業

昭和39/1964年卒業

昭和40/1965年卒業

昭和41/1966年卒業

昭和42/1967年卒業

昭和43/1968年卒業

昭和44/1969年卒業

昭和45/1970年卒業

昭和46/1971年卒業

昭和47/1972年卒業

昭和48/1973年卒業

昭和49/1974年卒業

昭和50/1975年卒業

昭和51/1976年卒業

昭和52/1977年卒業

昭和53/1978年卒業

昭和54/1979年卒業

昭和55/1980年卒業

昭和56/1981年卒業

昭和57/1982年卒業

昭和58/1983年卒業

昭和59/1984年卒業

昭和60/1985年卒業

昭和61/1986年卒業

昭和62/1987年卒業

昭和63/1988年卒業

昭和64/1989年卒業

昭和65/1990年卒業

昭和66/1991年卒業

昭和67/1992年卒業

昭和68/1993年卒業

昭和69/1994年卒業

昭和70/1995年卒業

昭和71/1996年卒業

昭和72/1997年卒業

昭和73/1998年卒業

昭和74/1999年卒業

昭和75/2000年卒業

昭和76/2001年卒業

昭和77/2002年卒業

昭和78/2003年卒業

昭和79/2004年卒業

昭和80/2005年卒業

昭和81/2006年卒業

昭和82/2007年卒業

昭和83/2008年卒業

昭和84/2009年卒業

昭和85/2010年卒業

昭和86/2011年卒業

昭和87/2012年卒業

昭和88/2013年卒業

昭和89/2014年卒業

昭和90/2015年卒業

昭和91/2016年卒業

昭和92/2017年卒業

昭和93/2018年卒業

昭和94/2019年卒業

昭和95/2020年卒業

昭和96/2021年卒業

昭和97/2022年卒業

昭和98/2023年卒業

昭和99/2024年卒業

令和00/2025年卒業

昭和21/1946年卒業

昭和22/1947年卒業

昭和23/1948年卒業

昭和25/1950年卒業

昭和26/1951年卒業

昭和27/1952年卒業

昭和28/1953年卒業

昭和29/1954年卒業

昭和30/1955年卒業

昭和31/1956年卒業

昭和32/1957年卒業

昭和33/1958年卒業

昭和34/1959年卒業

昭和35/1960年卒業

昭和36/1961年卒業

昭和37/1962年卒業

昭和38/1963年卒業

昭和39/1964年卒業

昭和40/1965年卒業

昭和41/1966年卒業

昭和42/1967年卒業

昭和43/1968年卒業

昭和44/1969年卒業

昭和45/1970年卒業

昭和46/1971年卒業

昭和47/1972年卒業

昭和48/1973年卒業

昭和49/1974年卒業

昭和50/1975年卒業

昭和51/1976年卒業

昭和52/1977年卒業

昭和53/1978年卒業

昭和54/1979年卒業

昭和55/1980年卒業

昭和56/1981年卒業

昭和57/1982年卒業

昭和58/1983年卒業

昭和59/1984年卒業

昭和60/1985年卒業

昭和61/1986年卒業

昭和62/1987年卒業

昭和63/1988年卒業

昭和64/1989年卒業

昭和65/1990年卒業

昭和66/1991年卒業

昭和67/1992年卒業

昭和68/1993年卒業

昭和69/1994年卒業

昭和70/1995年卒業

昭和71/1996年卒業

昭和72/1997年卒業

昭和73/1998年卒業

昭和74/1999年卒業

昭和75/2000年卒業

昭和76/2001年卒業

昭和77/2002年卒業

昭和78/2003年卒業

昭和79/2004年卒業

昭和80/2005年卒業

昭和81/2006年卒業

昭和82/2007年卒業

昭和83/2008年卒業

昭和84/2009年卒業

昭和85/2010年卒業

昭和86/2011年卒業

昭和87/2012年卒業

昭和88/2013年卒業

昭和89/2014年卒業

昭和90/2015年卒業

昭和91/2016年卒業

同窓会運営費一口(千円)以上にご協力ください

船高の歴史より(四)

1987(昭和62)年の アスベスト問題と校舎改修工事の今

県立船橋高校臨任教諭 山田 敏明(昭和49年3月卒)

執筆者紹介(やまだとしあき)

昭和49年3月卒業、昭和54年度より令和2年度まで県立高等学校国語科教諭、令和3年度から臨任教諭。平成21年度から12年間と令和4・7年度船高全日制に勤務。船高百周年記念事業に携わる。

和39)年竣工の本館西半分の廊下と一部教室のアスベストの使用が判明し、対策として「封じ込め」の処理が行われたということでしょう。

▼1964(昭和39)年からの新(現)校舎建設事情

船高の本館の西半分が竣工した1964(昭和39)年、東京五輪の年から大阪万博開催の1970(昭和45)年にかけて、日本経済は高度成長し、東海道新幹線が開業、高速道路が造られ、建造物では、旧来の木造建築物が次々に近代的な鉄筋コンクリート造りに代わっていきました。同様に、新校舎を新設・増設するほとんどの学校で、木造校舎に代わって機能性・耐久性・経済性に優れた鉄筋コンクリートの校舎が造られていきます。船高でも木造2階建ての旧校舎が今の4階建ての校舎に引き継がれていきました。建材としてアスベストは1970年から90年にかけて大量に使用されましたが、船高ではそれ以前の使用でした。

▼1987(昭和62)年の船高

アスベスト対策の記録のある1987(昭和62)年は、近隣では「センター競馬場前駅」が「船橋競馬場前駅」に改名され、船高では11月にセミナーハウス建設工事(翌年竣工)、翌年には本館大規模改修工事が始まり、事務室・校長室・教務室・保健室・進路室が移転したことが『七十年史』『百年史』にあります。水泳部の関東大会出場、将棋部の全国高校選手権大会ベスト8、囲碁同好会の全日本高校選手権

▼本館改修工事終了時期が延期に

現在、船高は「長寿命化計画」による長期の大規模な改修工事の真つ最中で、南館と新館(いずれも特別教室棟)が終了して、今年度は本館(普通教室棟・理科棟)の改修にかかっているところです。上グラウンドに造られた仮設校舎に本館のすべての施設設備が移動しており、来年3月終了予定でしたが、この7月に2・3か月の延期が通達されました。令和7年7月18日付けの学校発、生徒・保護者宛の文書にはその理由が次のように記されています。

「先日、工事中に過去に処理済のアスベスト含有建材が確認され、法令等に基づいた処置等が必要であることから、更に工期が、2・3か月程度延長される見込みであるとの連絡が、6月末に県教育委員会からありました。

今回の工期延長は、処理済ではあるものの、アスベスト含有建材の除去作業時における安全性を確保し、万全を期すための措置であります。」

▼アスベストとは何か

『竹取物語』でかぐや姫が求めさせた火にくべても燃えない布Ⅱ「火鼠の皮衣(ひねずみのかわごろも)」、江戸時代に平賀源

内が実際に秩父で発見した鉱物から作った「火流布(かかんぷ)」が石綿Ⅱアスベストであった可能性があります。安価で耐火性・断熱性・防音性・耐久性・絶縁性に優れ、繊維質の鉱物であったため、扱いが容易であったことから、日本では明治時代から輸入され、戦後はコンクリート建築の優れた建材として急速に普及していきました。理科の実験で使う「石綿金網」として、記憶のある方もいらっしゃるでしょう。

一方、アスベストの使用は、昔から危険性が指摘されてきました。空気中に浮遊する微細な繊維を長期間吸入することでじん肺・肺がん・中皮腫など深刻な健康被害を引き起こす可能性が高いことから、最大の生産・使用国である米国が規制を強化したこともあり、日本では石綿を含めた「じん肺法」が1960(昭和35)年に制定され、1970年代には吹き付けアスベストが禁止に、2000年代にはほぼ全てのアスベスト製品の輸入・生産・使用が禁止されました。(環境省「関係法令の解説」など参照)

▼学校建築で使われていたアスベストが問題となったこと

全国労働安全衛生センター連

絡会議によるインターネットの記事では、1986(昭和61)年までに、工事関係者をはじめアスベストに関連する多くの人々に中皮腫などの命に関わる深刻な症状が多数報告されたことに続けて、次のように記しています。

「学校の吹き付け石綿に対する社会の関心が集まり、地方自治体も調査せざるを得なくなつて、結局文部省が全国の公立・私立の学校・幼稚園、国立学校等における吹き付け石綿の実態調査を指示、公立学校(小中高等)合計約4万校のうち1,300余校でみつかるなどの結果が公表された。」そして連絡会議は参考資料として、1987(昭和62)年7月7日の朝日新聞の見出しに「発がん物質・石綿汚染に学校困惑／文部省急きょ全国で調査開始」とある記事を掲載しています。後に「学校(アスベスト)パニック」と言われる問題です。

▼船高の本校舎に使われたアスベストの対策の記録

船高の『七十年史』『百年史』では、1987(昭和62)年9月に「天井使用のアスベストが問題に」、12月に「国語研究室・数学研究室がアスベスト対策工事のため移転」という記載があります。おそらく1964(昭和

大会準優勝もこの年でした。

▼仮設校舎から

図らずも、封じ込めたアスベストの発見と工事期間の延長によって、戦後日本史における校舎建設の事情が垣間見られました。1964(昭和39)年からの移転は木造校舎から鉄筋コンクリート校舎への移動でした。今回のように仮設校舎へ丸ごと引っ越して、長期にわたる改修終了後、本校舎へ戻るということは初めてです。「新」校舎への帰還が待ち望まれる毎日です。ちなみに、筆者は今年度、三たび船高にフルで勤務することになったため、シートに覆われた本館を毎日見つつ、仮設校舎の国語研究室で、この稿を起しています。



令和7年現在の本館工事の外観

わが
同窓

尾崎 煙雄

(昭和56年卒)

千葉県立中央博物館
上席研究員
千葉大学大学院自然科学
科学研究科博士後期課程
単位取得退学後、千葉
県立中央博物館に勤務。
千葉大学理学部非常
勤講師、環境省モニ
タリングサイト1000里
地調査検討委員、千葉
県生物学会副会長等を
歴任。理学修士。芸芸員。



少年が夢想した

探検の旅

いつのことだったか、大人になつてからたまたま開いた小学校の卒業文集に「将来の夢」というコーナーがあり、尾崎少年はそこに「生物学者になりたい」と書いていました。「世界中を旅することができるから」というのがその理由でした。ジャック・クストーという海洋生物学者が七つの海を巡って撮影した驚くべき生きものを紹介するテレビ番組に憧れていたからです。当時の担任の先生が「生物学者でなくても世界旅行はできますよ」とコメントされていたのを読んで苦笑したことを思い出します。尾崎少年が夢想した世界旅行は、誰も見たことがない生きものを追求めめる探検の旅であり、そんな旅ができるのは生物学者だけだと無邪気に思い込んでいたのです。

船高を卒業した私は千葉大学理学部生物学科に進学しました。こう書くと尾崎少年はその夢に向かつてまっすぐに成長したように見えるかも知れませんが、そんなことはありません。高校時代には生物学者の夢などすっかり忘れ、読書や映画や陶芸に熱中していました(私は船高陶芸部の前

身である陶芸同好会の創設メンバーの一人です)。ちたばな祭を実行する文化委員会や新聞を作る出版委員会にもめりこみました。そんな私がもう一つ夢中になったのが登山でした。ワンゲルには所属せずもっぱら個人山行でしたが、日本アルプスなどの山々を歩くうちに高山植物の多様さに惹かれ、あらためて生物学を学びたいと思い始めたのです。

千葉大生物学科は控えめに言つてもかなり変わった所でした。というのも、当時この学科の二次試験は生物一科目のみだったからです(今は違いますが)。そんな入試を課す生物学科は他に例がなかったと思います。その結果「他の科目はからきし駄目だが生物学科だけは一倍好き」という輩が全国から集まっていたのです。あらゆる魚の名前を知っている、何も見ずにその絵を描ける者、信じ難い手際よさで細胞観察のための美しいプレパラートを作る者。同級生の中にはそんな異能の者がごろごろいました。教授陣にも立派な先生が揃っていました。が、私の生物に関する素養は同級生達に鍛えられたといつても過言ではないでしょう。大学で私は植物生態学を専攻しました。場所によって異なる森林ができるのは

なぜか、といった研究です。山登りばかりしていて修士課程の入試に失敗したり、博士課程に進んでも留年を繰り返して学位論文を出さなかつたりと、あきれられるほどの不良学生だった私ですが、幸運にも今の職場である千葉県立中央博物館に研究員として採用されました。

千葉県立中央博物館は自然誌と歴史を取り扱う総合博物館として一九八九年に開館しました。博物館の機能は資料収集、調査研究、展示、教育の四つに大別されます。生物担当の私の場合、野山に出かけて動植物の標本を採集し整理して保存する「資料収集」、野外調査や標本に基づいた研究を行い論文を発表する「調査研究」、集めた動植物標本を使って特定のテーマについて紹介する「展示」、子どもや一般向けに講座や観察会を開催する「教育」、これらすべてに関わる仕事をしています。教育の一環としてラジオ番組にも出演しています。NHKラジオ第一放送の早朝番組「マイあさ」内の「いきもの☆いろいろ」というコーナーで、植物や昆虫について一般向けにお話ししています。毎週土曜の朝五時半ころから十分程度の枠で、私の担当は五週に一回です。今年で通算十一年目になり、久しぶりに会う同級生から「ラジオ、聴いたぞ」などと声を掛けられることもありま



ツリークライミング中の筆者(2021年8月)

さて、少年時代の夢の通り生物学者の端くれになった私ですが、当時夢見た探検の旅はできただのでしょうか。仕事、プライベートを問わず、これまでさまざな場所を訪れました。ワニが泳ぎ回るフロリダの沼地で胸まで水に浸かりながら湿地林の調査をしたり、生きた化石メタセコイアの天然林を見るために空港から車で丸三日もかかる中国の奥地へ行ったり、オーストラリアの乾燥地帯を千キロもドライブして二十七億年前に地球大気に初めて酸素を放出したと言われるストロマトライトという生物を撮影したり、氷河によって削られてできたニュージーランドの長大な谷を何日もかけて歩いたり、それなりに探検らしい旅はしてきましたように思います。最近はずっと地味な「探検」にも凝っています。たとえば、沖縄の森で地面に這いつくばり、昆虫

に寄生する冬虫夏草という数センチのキノコを探したり、キノコに寄生して生きるわずか数ミリの花を探したりするのです。半日かけて半径たった数メートルの範囲を這い回ると、目当てのキノコや花以外にも驚くほど多様な生きものに出会えます。この探検を「森ダイビング」と呼んでいます。また、樹上の探検も楽しんでます。ロープやさまざまなギアを使う「ツリークライミング」という技術を使って木に登ると、地上とは別の世界が待ち受けています。ある日、私は樹木の枝に寄生するヤドリギという植物を専門に食べる毛虫を樹上で見つけました。たかが毛虫と思われたかも知れませんが、今まで誰も見たことがなかった生物の発見に心躍ったものです。振り向けば尾崎少年の夢は叶っていたのかも知れません。身体動く限りまだまだ探検の旅を続けたいと思います。

おたふり彼れ是れ

●高野(町辺)出美(昭和37年卒)
80歳という坂を越えた年、孫14人、どうにか育つていて有難い。騒々しい社会で自分の世界はどうやら。おたふりか幸福を味わえている自分がいる。

●節政(川崎)文江(昭和40年卒)
卒業以来、春の同窓会へはほぼ毎回出席しています。それは自分が健康であるという事が第一条件で船高時代の三年間に基礎体力を指導してくださった体操部の顧問であつた服部先生をはじめ全ての皆様に感謝の気持ちで参加させて頂いておられます。78歳を迎え現在演歌歌手となっております。

●荻島和男(昭和43年卒)
昨年55年ぶりに地域で卓球クラブに所属し、週4日の練習を始めました。当時を思い出しながら楽しんでおります。卓球部OBとして母校の卓球部員たちと交流してみたいという気持ちはありますが、関西在住の為実際は簡単ではありません。

●久保和秀(昭和44年卒)
小さな体育館(バスケットコート一面しか取れない)で剣道・卓球・体操などが仕切りのない中で部活動でした。転がってきたピンポン球をずいぶん踏みつぶしたと思います。先生や先輩、同期、後輩との思い出は、年を重ねるとともに良い思い出しか浮かびません。不満やサボりたい気持ちもあつたはずですが、未だに剣道具を付けて子供や孫世代の人たちと竹刀を交えています。

●今村(青柳)麻美(昭和46年卒)
70歳を過ぎて体力の衰えを感じていますが、楽しいこと、やりたいうことを見つけないと、一日たつた。楽しいことの一つが同窓生との交流です。46年卒の学年同窓会を二年に一度開催しています。今まで参加できなかった方も是非！ご参加をお待ちしています。

●猪野伸一(昭和46年定卒)
4年間の学業、くじけそうな時代に迎えて来てくれた友、親身になって励ましてくれた担任の芦原先生、野口先生、大恩人です。40年間の商売人生を支えてくれたあの時の青春時代、卒業出来て本当に良かった。

●植村八潮(昭和49年卒)
最近「読書バリアフリー法(障害の有無にかかわらずすべての国民が文字・活字文化に親しめるようにする)」と書店振興(書店が減少していることに對する対策)に有識者としてかわつていきます。

●池田美佳(平成4年卒)
先日数年前ぶりに高校1年生の時の同級生三人と食事をしました。高校時代の姿のまま歳を重ねたような容姿の変わらなさに笑ってしまいました。大いにしゃべり、笑い、船高生だった頃もこのように毎日過ごしていたということを久々に思い出しました。

●吉田智恵子(元職員・合唱部顧問)
船高卒業生合唱団「Coro Ponte」がついに全国大会で金賞を受賞しました。ご支援をよろしくお願いいたします。(同合唱団には百周年

記念演奏会でお世話になりました。◆以上は令和六年度の運営費「払込取扱票」通信欄または返信葉書

英語ディベート部

私(英語科 齊藤)が本校に赴任してきた3年前は、部員は5名。少人数ながらもやる気に満ちた生徒たちでした。一方、顧問となった私はディベート経験がなく、ルールから戦略まですべてを生徒に教わるところからのスタートでした。しかし生徒の熱意に触れるうちに、私自身も競技の面白さに引き込まれ、今では活動日の火曜・木曜が楽しみになっています。

現在の部員は31名。練習メニューの立案から試合のジャッジまで、生徒主体で運営されています。今年の夏に開催された「PDA全国高校即興型英語ディベート合宿・大会2025」では、全国3位という成果を収めました。部長で2年生の高橋さんは「夏は通過点。冬の全国大会で船高史上最高位を目指します」と意気込んでいます。

私たちが大切にしているのは、勝敗や英語力の向上にとどまらず、社会課題を議論し、さらに専門家の視点に触れて理解を深めることです。そのため「県船キーノートディベート」と称し、専門家をお招きして議論の場を共有してきました。こうした実践を通じて、生徒たちは社会との接点を感じながら学びを深めています。

「県船キーノートディベート」にご関心をお持ちのOB・OGの皆様には、ぜひお力添えいただければ幸いです。生徒にとって皆様のご助言や経験は大きな学びとなります。今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。(顧問 齊藤 奎)

に記載されたものの中からご本人の了解を得て掲載させていただきました。紙面の都合で掲載しきれないことお許しください。(編集部)

定時制剣道部

定時制剣道部は、初心者・経験者にかかわらず各々の実力に応じて、限られた時間の中、目標を設定し活動をしています。

大会では、本人の希望する結果に届かず悔しい思いを経験することがほとんどで、試合に勝つ難しさを学びながら、日々鍛錬を積んでいます。

その結果、2年前の春季大会千葉県予選では女子の個人戦で12年ぶりに優勝することができました。今年度の春季大会千葉県予選では、女子個人戦2位、男子個人戦3位、団体戦優勝という結果となりました。県大会団体での優勝は20年ぶりという事で、本人たちの自信になるとともに、今後の部活動の励みになる結果となりました。

全国大会では、男女とも個人戦と団体戦に出場することとなりました。団体戦は千葉県の代表として、他校と連合し、都道府県対抗で行われます。その結果男子団体戦では、予選リーグを勝ち上がりベスト8に、男子個人戦では1回戦を勝ち上がる事ができました。本人達には、千葉県の代表として日本武道館で試合に臨めたことはとても良い経験となりました。次年度も全国大会にいけるように稽古を重ねたいと思います。

諸先輩方を含め、多くの方々の力添えにより日々の部活動が運営出来ることを、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

在校生の活躍

《記号説明》

母校応援費の支給対象▼◎全国大会、◎地方大会(全国大会の予選を兼ねるもの、関東大会など)

地区大会(県大会など)▼①新人大会、②関東大会予選、③県総体・県総文、④千葉県高等学校校定時制通信制体育・文化大会、⑤その他 D ダブルス、S シングルス

【全日制】◇運動系部活動

ソングリーディング ◎USA School & College Nationals 2025 全国選手権大会10位 ◎令和9年度ダンスドリル秋季関東大会SONG PROM部門Large編成高等学校団体9位 ◎USA School & College Nationals 2025 東京大会8位 ◎令和9年度東日本高等学校ダンスドリル競技大会SONG PROM部門Large編成3位

アーチエリー ○第43回関東高等学校アーチエリー選抜大会女子個人9位 橋本、男子個人57位 村田 ○令和7年度関東高等学校アーチエリー大会女子個人42位 橋本 ○2025年度関東地区ターゲットアーチエリー選手権大会女子個人14位 藤島、23位 川上 ①女子団体4位 藤島、23位 川上 ②女子団体4位 橋本・塚田・細井 女子個人9位 橋本、12位 川上 ③女子団体4位(橋本・村尾・石原・藤島)、男子個人5位(村田・板橋・細井・鰐木)、女子個人5位 橋本、9位 藤島、川上、男子個人9位 細井 ③女子団体4位(橋本・村尾・石原・藤島・川上)、男子団体5位(高岡・村田・板橋・村田・板橋・細井・鰐木・醍醐)、女子個人10位 川上、14位 橋本、15位 藤島 ⑤令和7年度千葉県高等学校アーチエリー選手権大会女子団体3位(橋本・村尾・島木・石原)、男子団体5位(高岡・村田・板橋・廣瀬・塚田・西村)、令和7年度関東高等学校アーチエリー選抜大会千葉県予選会女子の部3位 藤島、

11位川上、13位小川 男子の部9位細井

水泳 ◎令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 200m個人メドレー出場 伊藤 ○令和7年度関東高等学校水泳競技大会 個人男子メドレーリレー出場 伊藤 阪井 ①水球5位、競泳男子総合8位、女子総合7位、男子1500m自由形8位土肥、同100m背泳ぎ4位伊藤、同200m背泳ぎ8位徳久、同200m平泳ぎ8位石原、同200m個人メドレー2位伊藤、同200mリレー8位(谷口・石原・土肥・伊藤)、同200mメドレーリレー7位(伊藤・石原・谷口・土肥)、競泳女子50m自由形7位杉浦、同200m背泳ぎ8位田上、同100mバタフライ5位阪井、同200m個人メドレー7位阪井、同200mリレー6位(阪井・田上・山本・杉浦)、同200mメドレーリレー7位(田上・肥野・阪井・杉浦) ③水球8位、競泳男子総合8位、男子100m背泳ぎ6位伊藤、同200m個人メドレー3位伊藤、同400mメドレーリレー7位(伊藤・石原・楠・土肥)、競泳女子100mバタフライ7位阪井、同200mバタフライ4位阪井、同55回千葉県高等学校選手権水泳競技大会水球6位、男子総合6位、女子総合8位、競泳男子50m背泳ぎ2位伊藤、同100m背泳ぎ1位楠、同200m背泳ぎ2位楠、同200mバタフライ4位親川、同400mメドレーリレー6位(伊藤・親川・楠・佐藤)、競泳女子50m背泳ぎ4位杉浦、同100m背泳ぎ3位阪井、同200mバタフライ2位阪井、同400mリレー8位(阪井・杉浦・田上・根本)

ソフトテニス ①男子団体・女子団体出場、男子Dベスト64(和田山・檜組) 女子Dベスト64(澤田・朝日組)、同(島田・新田組)、同2回戦敗退(西脇・長岡組) ②男子団体・女子団体2回戦敗退、男子D・女子D出場 ③男子団体出場、女子団体2回戦敗退、男子D・女子D出場

男子硬式テニス ①②③団体出場 ④令和7年度千葉県公立校大会ベスト16

女子硬式テニス ①②③団体出場 ④男子2回戦敗退、女子2回戦敗退 ⑤男子出場、女子2回戦敗退

柔道 ①②③なし

サッカー ①②回戦敗退 ③第6ブロック予選敗退 ④第14回全国高校サッカー選手権大会千葉県大会2次トーナメント出場

男子バスケットボール ①ベスト32 ②ベスト32 ③出場

女子バスケットボール ①②出場 ③ベスト32

男子バレーボール ①②出場 ③2回戦敗退 ④高校選手権千葉県予選地区ラウンド敗退

女子バレーボール ①ベスト32 ②地区予選敗退 ③2回戦敗退 ④高校選手権千葉県予選地区ラウンド敗退

バドミントン ①男子団体・同S・女子S出場 ②女子団体出場 ③女子D出場

野球 ①第77回秋季千葉県高等学校野球大会出場 ②第78回春季千葉県高等学校野球大会出場 ③第107回全国高等学校野球選手権千葉大会4回戦ベスト32

卓球 ①男子団体ベスト32、同Dベスト32(辻・野田組)、同S出場 ②男子団体ベスト16、同Dベスト32(辻・野田組)、同S出場 ③男子団体ベスト32、同D出場、同Sベスト64 ④千葉県公立校大会男子Sベスト32下藤

ダンス ⑤Dフエスタ2025出演

陸上競技 ①南関東大会男子800m出場松友 ①男子800m8位松友、女子400m8位林 ②出場 ③男子800m優勝松友

〔全日制〕文化系部活動

放送委員会 ◎第72回NHK杯全国高校放送コンテスト創作テレビドラマ部門準決勝(ベスト20)進出及び制作奨励賞千葉・立花・志村、同アナウンス部門準々決勝進出曾根田、同朗読部門準々決勝進出四宮 ◎第49回全国高等学校総合文化祭(かがわ総文祭) 朗読部門特別賞四宮 ◎第22回関東地区高校放送コンクール(群馬大会) ビデオメッセージ部門出場志村・山

本・中村・出羽 同アナウンス部門出場曾根田 ○第72回NHK杯全国高校放送コンテスト千葉県大会アナウンス部門優秀賞曾根田、同優良賞安藤、同朗読部門優秀賞四宮、同創作テレビドラマ部門優秀賞千葉・立花・志村 ①第36回千葉県高等学校文化連盟放送コンテストビデオメッセージ部門優秀賞志村・山本・中村・出羽、同アナウンス部門優秀賞曾根田、同朗読部門優秀賞四宮

図書委員会(図書部) ⑤図書館報(第63号)発行、ちばな祭にて「和綴じ本」製作・販売(完売)

英語デイベート ◎第10回PDA高校生即興型英語デイベート全国大会2024 10位(中山・宮崎・細川) ◎PDA全国中学校・高校即興型英語デイベート合宿・大会2025 3位(村田・森脇・高橋) 同ベストデイベーター賞森脇、佐久間、同ベストPOI賞村田、川添、辻

オーケストラ ①令和6年度第13回日本学校合奏コンクール千葉県大会優秀賞及び谷畑賞、第50回千葉県アンサンブルコンテスト西部地区予選、金管七重奏銀賞(廣部、齋木、落合、伏合、佐藤、萩谷、木村)、第38回千葉県吹奏楽個人コンクール西部地区大会、銀賞(トランペット廣部、同(ホルン小保方、銅管(トロンボーン佐藤、第24回千葉県管弦楽コンペティション弦楽八重奏、銀賞(三輪・毛利・三宅・村上・黒河内・斎藤・齋藤・中野)、第31回オーケストラフェスタ出場選抜弦楽アンサンブルメンバー選出・古田・千原・宮島・坂上・久村) 選抜オーケストラメンバー選出(有田・萩谷・小保方・落合・廣部・佐藤・山口) ⑤ちばな祭にて演奏、第49回定期演奏会開催、第73回千葉県高等学校連合音楽会、第19回オーケストラジョイントコンサート、第46回船橋地区高等学校音楽会参加、東船橋地区敬老賀会にて演奏、宮本地区社会福祉協議会クリスマス会出演、PTA総会前コンサート開催、県立船橋高等学校・県立

津田沼高等学校・市立松戸高等学校第2回特別合同演奏会「声風趣」開催

合唱 ◎第49回全国高等学校総合文化祭香川大会合唱専門部会長賞 ①第35回千葉県合唱アンサンブルコンテスト(女声合唱) 銀賞、同(男声合唱) 銅賞 ②第80回千葉県合唱コンクール銀賞、第92回NHK全国学校音楽コンクール千葉県合唱コンクール銀賞 ⑤第75回千葉県高等学校連合音楽会出演、第46回船橋地区高等学校音楽会出演、第45回定期演奏会開催、ちばな祭出演、第80回千葉県合唱祭出演、東船橋敬老賀会にて演奏、県立船橋・県立津田沼・市立松戸高等学校第2回特別合同演奏会「声風趣」開催、宮本地区社会福祉協議会クリスマス会出演

生物 ⑤ちばな祭にて飼育動物の展示、ビデオテープ整備

将棋 ①出場 ③団体3位 ⑤令和7年度全国高等学校将棋竜王戦千葉県大会出場

書道 ⑤千葉県高等学校総合文化祭への出品、第74回千葉県小中学校席書大会、千葉日報社賞・書星会賞、ちばな祭にて作品展示

自然科学 ◎全国物理コンテスト第2チャレンジ2025全国大会奨励賞福本 ⑤ちばな祭にて研究成果展示、船橋中央公民館主催「サイエンスファンタジー」出版、千葉県教育委員会「理科進学フェア」にて研究成果展示

軽音楽 ⑤ちばな祭にてライブ開催、校内ライブ開催(春・秋・冬)、御三家ライブ出演・他校との合同ライブ出演

演劇 ⑤令和6年度秋季地区発表会「いざや、楽しきまどいせん」最優秀賞、第77回千葉県高等学校演劇研究中央発表会「いざや、楽しきまどいせん」優良賞、令和7年度春季地区発表会「ちばな祭にて「COSPLAY」上演

ジャグリング ⑤ちばな祭と近隣公民館にて発表、近隣小学校にてジャグリング体験会

茶道 ⑤ちばな祭にて作品展示 ⑤ちばな祭にて呈茶

写真 ⑤ちばな祭にて写真集製作販売(3種類、完売)

クイズ研究会 ⑤各種の例会や大会に参加、宮本公民館にて船高例会を開催

美術 ◎美術工芸作品展出版 ⑤「MUSE」大阪万博ステージパフォーマンス、ちばな祭と船橋地区高校美術工芸作品展に出展

鉄道研究 ⑤ちばな祭において鉄道模型の運転を実施、年間に数回、冊子「Z-board」を発行、「佐倉草ぶえの丘」において秋祭りの鉄道模型運転を実施、宮本公民館「第36回みやもとまつり」において鉄道模型運転を実施

現代視覚研究 ⑤ちばな祭にて研究成果展示

〔定時制〕部活動

剣道 ◎令和7年度全国高等学校校定時制通信制体育大会団体ベスト8 ④春季大会団体優勝、女子個人準優勝石井、男子個人3位仁保

サッカー ◎令和7年度全国高等学校校定時制通信制体育大会出場 ○第39回関東地区高等学校校定時制通信制サッカー大会第3位 ④令和6年度秋季優勝、令和7年度春季優勝

バドミントン ④令和6年度秋季女子D優勝山田・キサン組、女子S優勝キサン、同男子D準優勝(桜井・坊野組)、同男子S準優勝坊野 ④令和7年度春季女子BリーグS優勝高橋

陸上競技 ◎令和7年度全国高等学校校定時制体育大会砲丸投げ出場井田 ④令和7年度春季女子砲丸投げ3位井田

バスケットボール ④令和6年度秋季女子優勝、同男子3位 ④令和7年度春季女子準優勝、同男子3位

その他 ④令和6年度千葉県高等学校校定時制通信制文化大会 写真の部出品、絵画の部出品、被服手芸の部出品

令和七年度 「春の同窓会」ご案内

実行委員長

小野 剛(昭和五十六年卒)

「春の同窓会」が本年も2月11日、幕張新都心のホテルグリーンタワー幕張にて開催されます。同ホテルは昭和28年卒我々の先輩林昇志様が社主であるだけでなく、私にとってもかつての職場「サッカー日本代表の活動拠点であるJFA夢フィールド」に隣接するため、とてもお世話になった懐かしい場所です。

還暦を迎える学年が幹事を務める慣例はコロナ禍で4年ずれ込み、今回幹事の私たちの学年も卒業から早45年を迎えることになりました。

振り返れば、学業のみならず皆が多様な才能を自由に伸ばしていく校風の中で過ごした高校時代は、その後の人生、そして現在の仕事にも大きな財産となっていることに気づかれます。そして今でも、先輩や後輩の活躍を耳にするたび、元気をもらっている自分がいます。

「春の同窓会」は、そんな各方面で活躍している仲間たちが世代の枠を超えて一堂に会し、新たな交流を広げたり、あるいは当時を懐かしみながら旧交を温めたりと、母校に思いを馳せおおいに語り合う場です。

30年前にこの会を立ち上げてくださった先輩方への感謝の念とともに、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

春の同窓会

ホテルグリーンタワー幕張4階
ロイヤルクレセント

2026年2月11日(水・祝)

13:00開演

開催案内

◇受付 午前12時00分から12時50分
まで4階宴会場入口にて

※幹事学年の受付は3階

◇開宴 13時00分(15時30分閉演の予定)

◇会費 10,000円

(ご注意) 当日の受付にて申し受けます。運営費と一緒に振込みはできません。

◇返信葉書の記入について

【出席の方】 同封の返信葉書(切手不要)に必要事項を記入の上2026年1月5日までに投函して下さい。

【欠席の方】 欠席のみのご返信は不要です。ただし住所等の変更がある方、通信欄を記入される方は必要事項を記入の上1月5日までに投函して下さい。

◇その他

【会場の座席】 会場でのお席は円卓別に指定されますので当日配布される会次第書にてご確認ください。なお食事は着席で個別に給仕されます。

【ご注意】

- ①急用による欠席については2月10日までに下記へ必ずメールして下さい。funako100dai9@gmail.com
- ②出席のお申込み無しに当日来場された場合、入場をお断りすることがあります。
- ③会場では個人による発表・演奏等は固くお断りします。
- ④飲酒を伴いますので20歳未満の方は参加できません。

⑤学校及びホテルへは問合せできません。

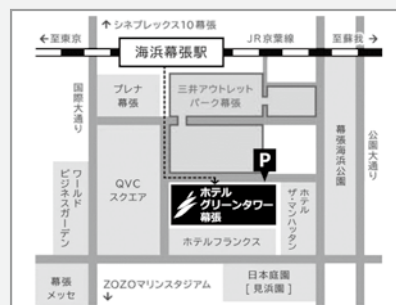
◇会場までの交通

●電車でお越しの方はJR京葉線 海浜幕張駅より徒歩約3分、JR総武線・京成線 幕張本郷駅からバスで15分海浜幕張駅(終点)下車後徒歩約3分です。

●お車の方はホテルの駐車スペースに限りがあります。満車の場合は近隣の有料駐車場をご利用下さい。

《会場周辺地図》

千葉市美浜区ひび野2-10-3



同期会 OB・OG会 活動情報

【同期会】

昭和56年卒同期会

春の同窓会幹事学年の皆さんは本会の終了後同じホテルの別会場で開催されます。当日は同期会のみへの参加も可能です。参加を希望される方は同封の「春の同窓会」参加申込はがき」にある「幹事学年同期会参加」に○を付けて投函してください。同期会開催日時・令和8年2月11日(水・祝)午後16時開演 会場・ホテルグリーンタワー幕張3階メロディアス 会費・3千円(当日会場にて集金)

【同期会】

昭和43年卒同期会

令和7年6月14日にホテルフロラ船橋にて開催されました。54名が参加し「遙かな昭和を語り歌おう」をテーマに楽しいひと時を過ごしました。

【同期会】

昭和49年卒同期会

令和7年5月18日にホテルグリーンタワー幕張にて開催されました。74名が参加し賑やかな会となりました。

【同期会】

昭和50年卒同期会

令和7年10月11日にホテルグリーンタワー幕張にて開催され、93名が集まり古希のお祝いと同時に卒業50周年を喜び合いました。

【同期会】

昭和51年卒同期会

は例年通り1月初めに開催を予定しています。連絡はメールのみで幹事の村上治までお願いします。

【部活動OB・OG会】

■柔道部OB会が船高同窓会支部等に認定されました。同支部の構成員は約460名、毎年総会を開催し在校生の部活動への援助もしています。

▼これ以外にも支部等として認定を希望される団体(OB・OG会結成準備中も含む)がありましたら事務局までご連絡ください。

同期会の開催・支部等の活動には同窓会から補助金が交付されます。

4ページで説明した通り、同期会の開催および部活動OB・OG会の活動を令和7年度4月1日から支援することとなりました。これに関連して各々の情報を同窓会だより並びに同窓会ホームページで発信していきます。案内を希望する場合は同窓会HPにある「連絡フォーム」を利用して同窓会事務局までご連絡ください。

編集後記

検討を重ねてきた同窓会後援事業の充実化計画が、規則の制定にこぎつけようやく実を結ぶことになりました。提案をしてきた者の一人として嬉しい限りです。まだまだ改善の余地はありますが同期会の開催補助、部活動OB・OG会を念頭に置いた支部等の活動補助は多くの会員の皆様に利用して頂きたいものです。さて今年も無事に同窓会だよりをお届けできました。改めて多くの方々のご協力に感謝申し上げます。(編集長 森和俊 記)